

## クモとアリに関する知見

小 松 敏 宏

長野県諏訪市上諏訪末広町 2 の 3170

## Notes on Spiders and Ants

Toshihiro KOMATSU

Kamisuwa, Suwa City, Nagano Prefecture

1933年まで諏訪市にいて、翌年茅野市にうつって1938年までいたが、当時習性を研究していた幾つかのクモは材料が手に入らぬまま、研究中止となり、たゞユカタヤマシログモ *Scytodes thoracica* の粘液射出については報告した。当時最も興味を抱いていたのはクロアリグモ *Myrmarachne innermichelis* BÖS et STR. とツヤグモ *Micaria claripes* DÖNITZ et STR. のアリとの関係についてであった。

前者については其後材料が豊富に入手できたので報告した。因にこのクモはアリを攻撃することはないようである。私は現在再び諏訪市に戻って来ているのだがツヤグモは絶えていて観察できないで過ぎている。また茅野市にいた当時蟻の巣内で採集し、其後再会の機会を得ぬクモもあるので現在までの知見を御紹介して同好の方の参考に資したいとおもう。

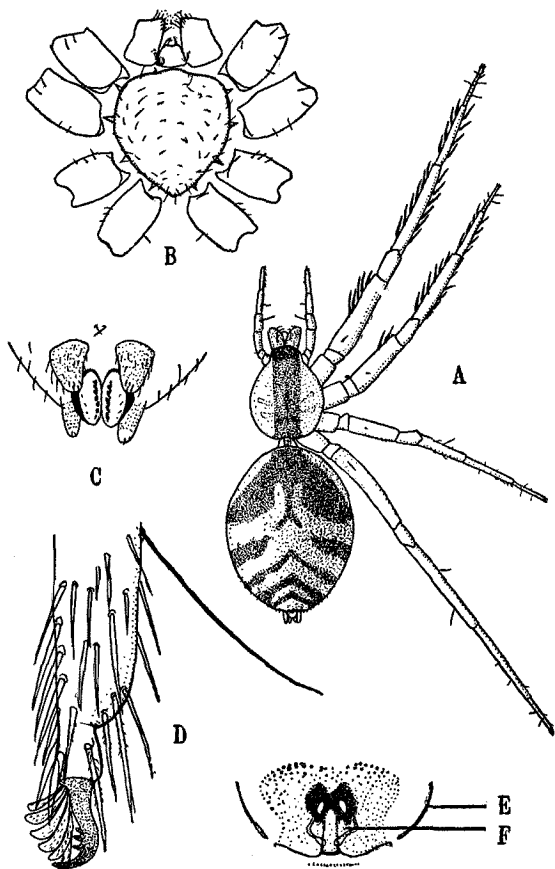
1 *Micaria claripes* とアリ

私の知っている範囲ではこのクモはトビイロケアリの生活する地区のみに生活しているようである。形態もこのアリよりすこし大型の程度で極めて似ていて素人はアリと見違えるほどである。徘徊性である。産卵場所は大切な意味があるので注目していたが、ヨーロッパ産の *M. pulicaria* 同様円盤状の硬い卵袋を石の下面（アリの巣とは無関係）に作り、例えば外国産のあるもののように *Agelena* 属の網の一部に産卵するといったような様子は全く見られなかった。

日中、直射日光下や日かげの裸出した地面とか枯葉の間を、いつも第一歩脚で空間をさぐるようにして歩いては止り歩いては止るという歩行法、ハエトリグモやハシリグモの歩行に似てもっとゆるやかな速度である。武装は極めて優れているに反して消極的で獲物をとらえるのを見たことがない。体長のはゞ等しいトビイロケアリと顔を合わせる機会が多いが、両者が顔を合せると相手をさける。不思議におもってアリの巣を掘ったり其他気のつくことを色々やってみたが結果は何もでてこない。たゞ大型の標本瓶（直径 5 cm）に土をすこし入れ、トビイロケアリとツヤグモ各一匹ずつを放しておくと翌朝トビイロケアリは死んでいる。前者を後者が攻撃することにはゞ確かであるが夜間のみに限られるのはおかしい。

## アリの巣内で採集したクモ

茅野市の北山区に柳沢の森というのがあって、森の下草の間に一かゝえほどの転石があり、その下に体長約 5 mm ほどの一種のアカアリの巣がある。この石を転ばすと、巢の上部にあたる石の下面にアカアリによく似たクモが踞っていて、アリは素早く逃げ去るがクモは逃げないので採集できた。岸田久吉先生の御鑑定によるとキブネグモ *Ferrieria cibunea* KISHIDA である。因にこの種は *Phrurolithus komurai* YAGINUMA, 1952 と同一種とにらんでいるが、実物を較べていないので確言はさけるべきであろう。もっともどんな種について云っているのか御理解いたさかねば役立ちませんので当時の図を入れます。体長 ♂ で 4.7 mm, ♀ 5 mm, 上方から見て両眼列とも recurve で、脚端の上爪は 3 歯がやゝ鈍く、太い粘毛をもっている。第一第二歩脚とも、Fem. Tib. Metatar. 何れも強大な剛刺をもち、その数は *Ph. komurai* と同じである。Tarsus の下面にも剛毛をそろえている。脚長も 4 1 2 3 の順序である。触肢は頭胸部長にわずかに優り、下顎は縦長でやゝ前に寄り、下唇はほぼ梯形で横長で前端はくぼむ。胸板は僅かに縦長で後端はにぶく尖っている。蛛疣は *Micaria* に似て前後疣は小型だが中疣が大形で長卵形の上面に一列の吐絲口があり ♀ の Epigastric area は図の比較で *Ph. komurai* にそっくりである。以上より推して不分明の個所もあるが同一種ではないかと考える。勿論 Fam. Clubionidae



*Phrurolithus komurai* YAGINUMA (= *Ferrieria cibunea* KISHIDA) A. dorsal aspect. B. ventral aspect of cephalothorax. C. spinnerets. D. tarsus of leg I. E. spiracle of book-lung. F. epigynum.

の *Liocraninae* に入るとおもわれるが、体色は褐黄色地に赤褐色の頭胸部の縦斑、腹部の横縞模様を持ち、アリより僅かに大型だが極く似通っている。

このクモについて私が最も注目するのは、私の採集記録によると極めて稀薄な存在であるが、採集個所は例外なくアカアリの巣の上部を蔽っている石の下面であることである。そこにはいつも 1~2 対の♂♀がいたが卵袋や若蛛については知るところがない。しかし恐らくアリと最も密接な関係をもつクモと考えている。このクモについては将来機会があればその生活史を確かめたいと念願している。

### Résumé

*Myrmarachne innermichelis* BÖS. et STR., *Micaria claripes* DÖNITZ et STR., *Phrurolithus komurai* YAGINUMA (= *Ferreria cibunea* KISHIDA) have ant-like appearances. But *Myrmarachne innermichelis* does not attack the ant. *Micaria claripes*; this spider probably feeds on ants. I have made an experiment on this species in various methods, and found this spider attacks the ant (*Lasius niger* LINNAEUS) at night. The cocoon of this spider is attached to the underlying surface of a stone. *Phrurolithus komurai* is always found beneath the stone which lies on the nest of some red ant.

オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch) (s. lat.)

の変異とその系統及び分布に関する研究

植 村 利 夫 著

Studies on the Variation, Lineage and Distribution of the  
Japanese Spider, *Araneus ventricosus* (L. Koch) (s. lat.)

[in Japanese with English summary]

By Toshio Uyemura

Published by Arachnological Soc. of East Asia.

(B 5. 116頁, 30図, 15図版. 実費頒価 750円 (〒 別)  
175 mm×240 mm, 116 ps. 30 figs. 15 pls. \$ 3.00)

— 東亜蜘蛛学会発行 —